

SHINGON HORONIC

色
IRO

は
WA

匂
NIO

へ
E

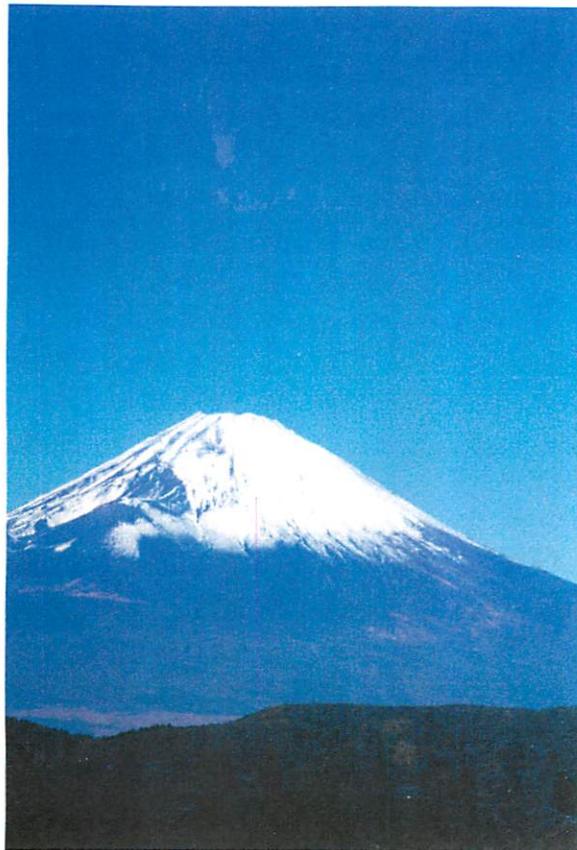
ど
DO



特集 五條のだだおし

平成十七年正月 卷三十三

靈峰富士と六根清淨



富士山ほど美しい山を他には知らない

昨年高野山から熊野にかけての
広大な地域が世界遺産に指定された

しかしこの美しい富士は世界遺産になれなかつた
あまりに夥しいゴミによつて

富士山に登る人々が靈峰を汚し続けている
私たちが山に登るのは

頂の祠（浅間大権現）に詣でるためであり
潔齋し精進の歩を進める

山を征服するという西洋とは根本が異なる
山をいただくことで自らを清める

一步一步登りながら六根清浄と唱えたものだ

山をいただくことで自らを清める

富士山レーダーが撤去された今
富士山の浄化を

編集主幹

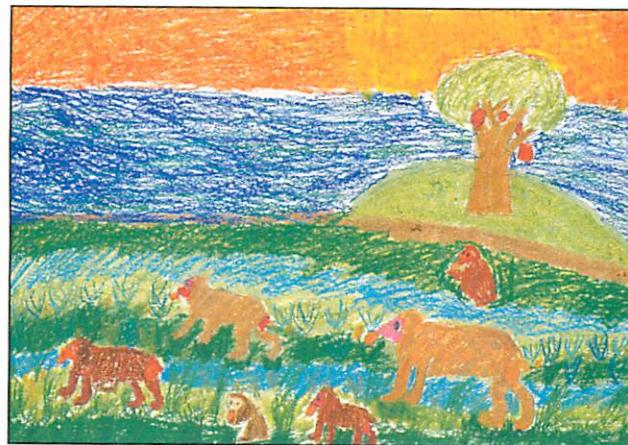
阿部龍樹

特集 五條のだだおし

文 阿部龍文 3



お釈迦さま 真理の花束 13



現代の道しるべ

ジャータカ物語 サルの王様 11

情報コーナー

16



18



毎年一月十四日平安時代から脈々と伝わった豪快な火祭り、だだ押し鬼走りが、五条市の念佛寺で行われている。



五条市は奈良県の南西を占める都市で、北に葛城金剛山の山々が迫り、南西に高野山、東に吉野、東南に大峯その奥に大台ヶ原の台高山脈が屏風の様に南北に連なっている。その大台原山系から沸き出でる水が、吉野川の急流となつて流れ下り、やがて西に向うと川幅の広い清流となる。淨瑠璃の「妹背山女庭訓」の吉野川の段で知られる背山が、大和三山を想わせる円丘を竣厳な高山を背景に左岸に、これに対峙する妹山が、右岸に妹山樹叢（天然記念物）を成し大名持神社がその麓に鎮座する。流れはやや緩やかな溪流となつて西に向つて流れ、日本最古の市があつたところで近世まで賑わつた下市を流れ、やがて川は吉野町から五条市に入ると川の流れは静かになる。

たまきはる 宇智の大野に 馬並めて
朝踏ますらむ その草深野
（萬葉集）

舒明天皇が宇智の大野に遊臘せられた折に、中皇命が間人連老に奉らせた歌にある宇智大野が今の五条市である。

『空海少年の日、好んで山水を涉覧して、吉野より南に行くこと一日、さらに西に向つて去ること両日程にして、平原の幽地あり。名づけて高野という。計るに紀伊国伊都郡の南に当れり。四面高嶺にして人蹤蹊絶えたり。今思わく、上は国家の奉為に、下は諸々の修行者のために、荒藪を芟り夷げて、聊か修禪の一院を建立せんと』弘法大師が、吉野、大峯、熊野、高野と抜渉した折幾度かこの地を踏んだであろう。この辺りには大師の伝説が多い。



榮山寺
八角円堂
本堂
石灯籠
山門
大日堂
鐘樓堂
七重塔婆（石造）
長屋門
梅室院（庫裡）
と統く配置である。

榮山寺の諸堂塔等は、史跡の境内に川の流れに沿つて東から

創建は古く藤原宮の時代にまで遡ると推定されている。藤原宮は、榮山寺のすぐ北に位置しており、境内から出土した古瓦が本薬師寺の古瓦と同一であり、新薬師寺の古瓦とも一致することから、本薬師寺の堂宇の一部が移されたと見られている。

榮山寺

吉野川の両岸を占める五条市には榮山寺・金剛寺など名刹も多い。これらを紹介しながら念佛寺に到る事とする。

その一つに弘法大師が榮山寺に留まっていたときのこと、吉野川の水がすさまじい音を立てていることから、住僧の一人が「吉野川の水音が勉学の障げになりませんか」とたずねた。大師は経巻を手にすると拝讀して流水に投げ入れられた。すると水音はぴたりと止んだ。以来音無川・音無瀬と呼んでいる。

八角堂（国宝）八角柱に天平時代の装飾画「八角柱音菩薩図」（重文）がある。飛貴には飛天・人鳥・菩薩・神仙図、天井には剥落しているが宝相華文があり、御住職撮影の写真パネルを御本堂で見ることが出来る。

簡素、勇健なたたずまい、奈良時代の八角円堂としては他に法隆寺の夢殿が唯一のものである。八角円堂の他の例としては鎌倉時代の基壇の上に建つ本瓦葺きの雄健な興福寺北円堂と、京都太秦広隆寺の桂宮院本堂の檜皮葺の優美な円堂がある。

法隆寺の夢殿が聖徳太子により両親の供養のために建てられた様に、この八角堂も、藤原仲磨が、父、武智磨と母貞媛娘の供養のために建立されている。

梵鐘（国宝）高雄山神護寺、宇治平等院とともに平安三名鐘に数えられる。青銅製高さ一五七、四cm口径八九cm、四面の銘文は、菅原道眞撰文、小野道風の書と伝え陽鋲されている。延喜十七年十一月鋲成とあり、龍頭はその精巧さで本邦隨一、鐘身の美しさも比類なく名鐘であることをうなづかせる。

七重塔婆（重文石造）奈良時代で我が国最古の石造塔の一つ
石灯籠（重文・弘安七年）

本堂 本尊薬師如来（重文木造）と十二神将（重文木造）も安置する。

五条には更に名刹が多く、鵜飼もここで始まつた阿田の源竜寺は「流し雛」で知られ、菊薬師として名高い金剛寺、その南に智辯学園を経営する辯天宗の宗祖御廟、近くに辯天宗の總本山、又

丹原の吉祥寺には「一刀三札石」があり、そのいわれが掲げられている。

五条について少し詳しく記して来たが陸路も北にすすめば、古くは藤原京に、平城京の朱雀大路が南に延びた幅四二、五mの下つ道に直ぐ達し、下つ道が交わる。やはり四二、五mの横大路を西に進めば難波津、東に進めば伊勢へと続き、五条から東へ行くと熊野路に出る、西は橋本を経て紀伊路で熊野、熊野路にも通ずる。

そして水運路は上流からは木材、鉱石などが運ばれ、西は紀伊水道まで自在に往来したのであるから、古代から商工業の上からも要衝の都市であつた。

五条 念仏寺鬼走りだだ押し

念仏寺のだだ押しは、近くの人も、知る人も少く、ひつそりと行われてきた。

私はまだ押しの法要を勤めているのは何ういう人々で、何ういう寺院かを知りたいと思い市役所に問い合わせ、榮山寺にも金剛寺にも聞いたが知る由もなかつた。

その頃、人の気配もない境内に佇むと、古びた三間四面の本堂がひつそりと建っていた。

ここでもこの無住の寺をどこの寺院で兼務しているかもたずねるすべもなかつた。

ただ押しが千年以上も何の形も崩すことなく行われて來たのは、当事者だけでひつそりと行われて來た事が一つの要因であつたろう。

反面、村たちは正月の五日から松明用の松の根を掘り、柴（檜の枝葉）を用意し、特に鬼役は、開白の八日から別火精進と氷りつく冷水を浴びる斎戒沐浴をし、火天役、裏方の諸事をとりしきる

村人までが伝統を守りつづけて来たことはだだ押しが、観光化せず、秘かに行われたことによるであろうと痛感した。

今年、正月十四日朝、意を決して東京をこの日一番の新幹線で発った。列車が遅れ、最初の行法、昼の鬼走り（無火）は終わっていた。

行法が済んだばかりの境内には余韻が漂い、何人かの村人たちに、ほつとした表情が見られた。

これから法要の事などをたずね、本堂に向うと、本堂はすっかり手が入り、増築もされていた。

傍の人が今日のこれから行事について話してくれた。

四時半に、境内に組まれた檜からの福餅まきがあり、七時、堂内で、息災護摩、七時半に、境内で柴燈護摩供が行われ、九時からが夜の鬼走りとの事であった。

柴燈護摩

境内に巨大な丸太を五段、井桁に組み上げた上に柴（檜の枝）を何重にも重ね、すっぽりと覆いつくし四方に縄を打つてある。

見上げるばかりのこれ程大きなものは、初めてである。大峰の柴燈護摩と同じであつたろうか。

正面に導師の修法の机が置かれ、その向こう側に、机を一列に長く並べて、付護摩木を何箇所かに積んで、記入する人が列を成していた。

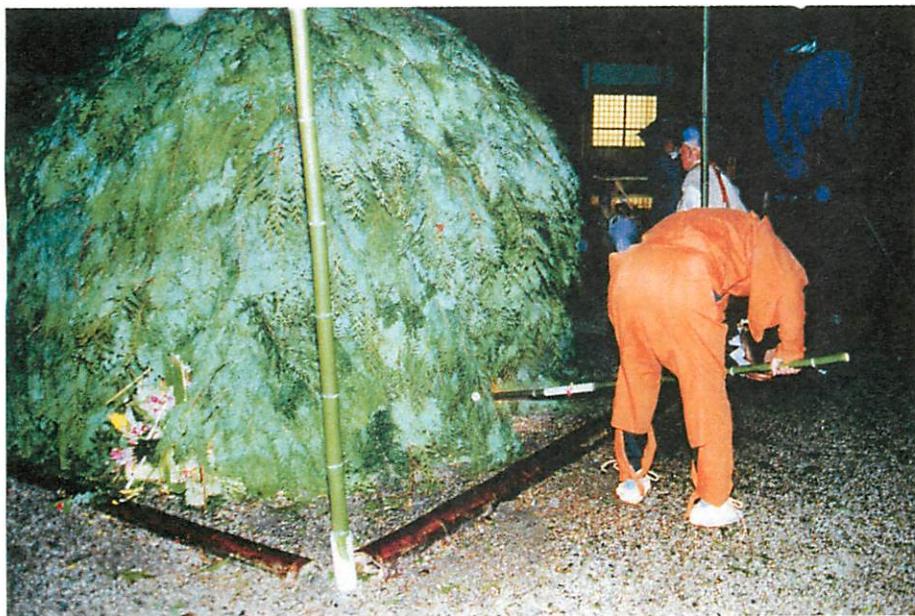
九時、待つこと久しく法螺が聞こえ、山伏、火天役（カツテヤク・阿弥陀如来の面をつける）、導師、職集の列を進めて、席に着いた。榮山寺の柴燈護摩の特異なのは、火天役があり、その役割が大きいことである。





火入れは火天役一人が、本堂の息災護摩の火を取り、井桁の下から中央まで差し入れて点火する。
濛々たる煙が一面を覆い、参列者も涙を流して見入っている。

山伏の四方がためも、天に向つて矢を放たず、弦を鳴らすことにしている。炎が天を焦がすとやがて巨大な井桁が姿を現すのである。



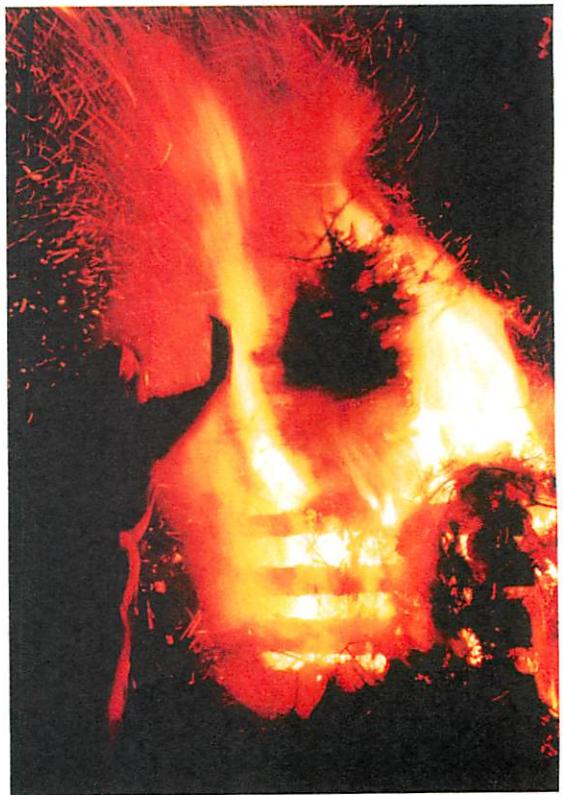


夜のだだ押し

八時過ぎから集まり始めた人々が、やがて参道の両側を埋め尽くす。

九時近く遠く法螺が聞こえやがて、山門のところから響いて来る。法螺を吹く五人の山伏、導師、職集、これに続いてそれぞれ火天役（阿弥陀如来の面をつけているという）を従えた赤鬼（父鬼）が右手に斧を持ち稔木を持つ青鬼（母鬼）、槌を持つ茶鬼（子鬼）が、径二尺、縦四尺、重さ六十キロの燃え盛る大松明を抱えて進んできて、迎えの小松明を先頭にして入堂する。

鬼役は水槽に合掌して何回も冷水を浴び斎戒沐浴を繰り返す。しばらくして鐘の音を合図に導師式衆の口早に読む読経と、カタン、カタンという硬く乾いた棒打の響、火天役による「火伏せの行」が始まる。燃えさかる松明を肩にした火天は、ゆっくりと摺足で





参詣人の前に姿を現す。そして火祭りの安全を願つて、空中にかざした松明を水の字に振る。炎の松明を天井高く差上げて、闇夜を引き裂かんばかりに振り降す火天の姿は、まさに不動明王である。かわせ（陀々堂では水天役をこう呼ぶ）は笹竹を桶につけ、天井から長押し柱、扉の内外まで水を打つてまわる。床に落ちた火も消して回るのである。火天の荒行が終ると一瞬の静寂が漂い、よいよ鬼の登場となる。檜のひばが燻る煙が濛々と堂内に立ち込める。須弥壇裏の囲炉裏で発火寸前まで暖められた大松明に、差配（指揮者）の「一番松明点火」という緊張した声を合図に行者達は一斉に活動をはじめる。間合いを計つて二番、そして三番松明にも火種が移される。

一番松明が佐役の肩に乗せられ、右手に斧を持つた赤鬼と共に正面北の戸口に走り出でてくる。あたりを搖るがす法螺貝の響き、太鼓の棒打と、強烈な音響を背景に、堂内が明々と照らし出され、鬼面が浮び上がる。

片腕、片膝で松明を受取つた赤鬼は、一瞬、天空に向つて斧を構えて静止し、火の粉を振り撒きながら正面中央戸口に歩を進め。同じように、大松明を抱えた青鬼、続いて茶鬼が登場する。赤鬼が中央から更に歩を進め正面南戸口で空を睨む時、北の戸口には茶鬼が現われ、赤、青、茶の鬼が姿を現し、内陣を三匝し終わると、赤鬼が真ん中の柱の間に立つ。また一回りして青鬼が更に一度まわって、茶鬼とが代わる代わる姿を現した後、赤、青、茶の鬼が三つの柱間に揃つて立つと拍手が沸き起こり、シャツターカを切る音が雨のようである。だだ押しは最高潮に達する。

十時半興奮の中で終了し、十一時京都に向つた。

室町時代の古面を伝えるだだ押しは、鎌倉時代から創められてゐる。しかし筆者は、韁靼から東大寺の修二会の韁靼の行法を想い起こす。



また、これも創草は不明であるが、長谷寺でも修正会としての鬼走りが今も行われていることである。但し、長谷寺の場合は、今は、二月十四日であるのは諸行事の関係から二月となり、また法要の形も古様を伝え得なかつたのは、次第に多くなつてゐる参詣者の事も考慮に入れて行われてきた事と推察される。

だだ堂の創建・運営・鬼走り保存会

だだ堂念佛寺大津町一七七番地は四柱造、瓦葺の本堂に本尊不動明王が安置され、鎌倉時代阪合部氏の祈願寺として創建。永享元年（一四二九）本尊を阿弥陀如来とし不動明王はその右側に安奉祀し現在に至つてゐる。花園天皇の弥陀信仰に基づくといふ。

筆者はだだ堂の創草は当初のだだ堂が榮山寺薬師堂金堂と全く同じ四柱造瓦葺であつた事、榮山寺金堂は應永二十八年（一四二一）の棟札があり、その八年後の永享元年（一四二九）に本尊が阿彌陀如来に変更された年であり、しかも、だだ堂は文明十八年（一四八六）頃宝造り（棟瓦付は異形）茅葺となつた年である。この事はだだ堂が瓦葺となつたのは百年や二百年は以前であつたろう。榮山寺金堂の創建は八角堂と同時期或いはそれ以前と考えられるから、だだ堂も奈良時代までも遡り得るであろう。
韁鞆の行法がその頃からであつても不思議はないのである。

念佛寺の運営

宇智郡阪合部地区の大津町以下十三の町（集落）から選出された総代により運営され、鬼走りの保存会も、こここの地区の人々で作られ支えられている。

生命を捨てて仲間を助けたサル王

絵 美香

美術指導 小原洋子先生

むかしむかし菩薩はベナレス王国のサルの王様となっていました。八万匹のサルを従えヒマラヤの奥に住んでいました。

そのころガンジズ川のほとりにマンゴーの大木が枝一杯に立派な実を付けていました。その大きさ香りの高さ、そしてその味は天の神々のものかと思うほど素晴らしいものでした。

仲間のサルとマンゴーを食べていた王様ザルは考えました。「この実が川に落ちれば、いつか我々に災難がふりかかるつくるにちがいない。」そこで王様ザルは手下に命令して、川に張り出した枝のマンゴーの実は一つも残さぬようにはいました。よく用心して花が咲いて実が付いたら小さいうちにたべなさい。

ところが八万匹のサルの目をのがれてたつた一つのマンゴーの実が葉陰で立派に育ち川に落ちました。

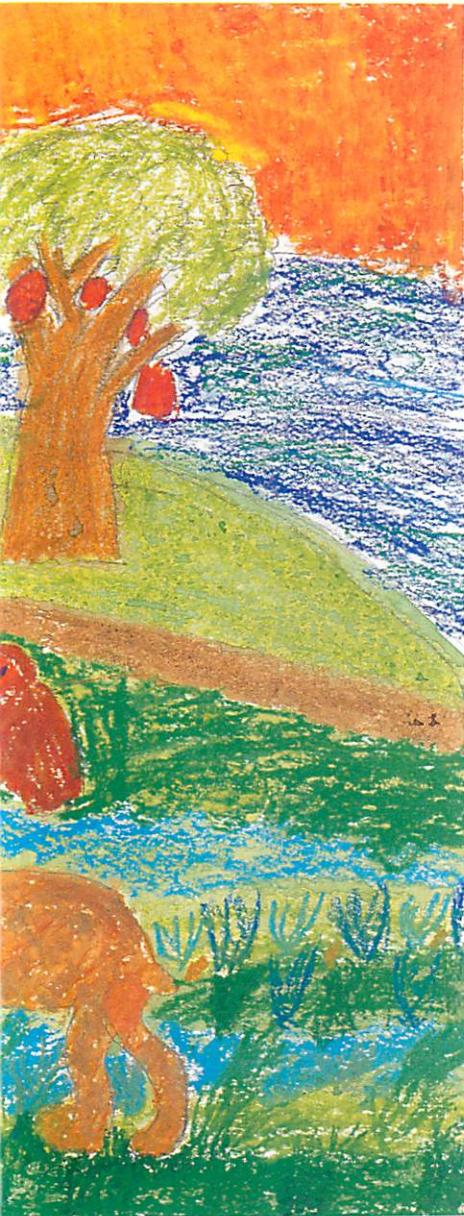
そのころ下流ではブラフマダッタ王が川遊びをしていました。帰ろうとして家臣たちが網を片づけていると、見たこと

もない立派な木の実が網にかかりました。さつそく王様にその実を見せました。

「この実はなんの実じゃ。」とお尋ねになりますが誰も答えられません。王様は家臣達とガンジス川をさかのぼることになりました。

やがて沢山のマンゴーがたわわに実る立派な木を見つけました。王様はサルたちがマンゴーを食べているのを見て「木を取り囲んで矢を打つてサルも木の実も一緒にいただこう。」それを聞いたサルたちは震え上がりました。しかし王様ザルはいいました。「大丈夫だよ、私が必ず助けるから。」そういふと王様ザルはひらりと川の反対岸へ飛び移りました。そして藤ヅルを編んで縄を作り、側の丈夫な木に結びました。縄の反対は自分の身体にしつかり結びました。そしてもう一度マンゴーの木に飛び移りました。両手を伸ばしてなんとかマンゴーの木まで縄の橋が出来ました。王様ザルは仲間達に「早く私の上を通して逃げなさい。」サルたちは王様ザルにお礼を言つて別れを告げて対岸に逃げていきました。サルたちの中に王様ザルを日ごろから妬んでいたデーヴアダッタというサルがいました。

「今こそあいつをやつつける時だ、そしておれ様が王になる。」



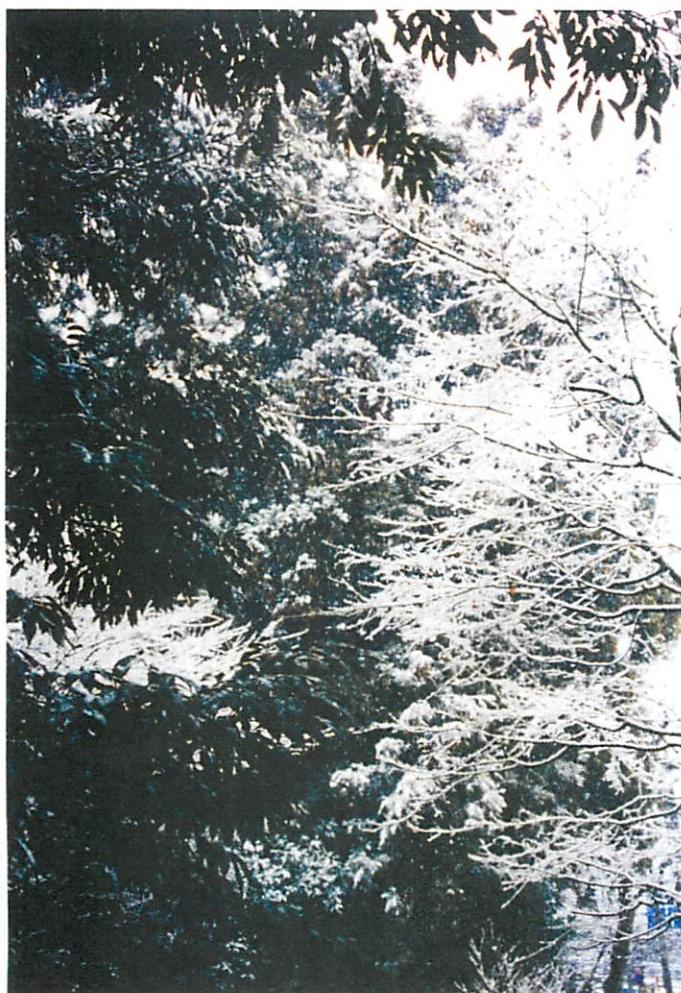


デーヴァダッタは高い枝に上り王様ザルの背中めがけて思い切り飛びおりました。王様ザルは激しい痛みに顔を歪めながらも仲間をすべて助けるため手を離しませんでした。そのすべての様子を見ていたブラフマダッタ王は感心して王様ザルを助け自らの椅子に横たえ介抱をしました。そしてたずねました。「お前はなぜ自分を犠牲にして仲間を助けるのじゃ。」「私は王です。王は仲間を守り、恐れを除き、安心を与えるのが役目です。」といつて息を引き取りました。ブラフマダッタ王は王様ザルのために人間以上の盛大なお葬式を行い、立派な寺を建て、花を絶やさず飾り、王様ザルの教えを守り偉大な王となりました。

ジャータカ物語はお釈迦様の前世の物語です。

お釈迦様の前世は猿の王や金の白鳥やときにはかわいいウサギなど様々な生き物でした。そして多くの善行と徳を積み重ねたのでやがてお釈迦様となりました。ジャータカ物語には日本の童話やイソップ物語のもとになるお話も多くあります。親が子供に読み聞かせるのにも最適です。

お釈迦さま真理の花束



Indeed, from meditation does wisdom spring,
Without meditation wisdom wanes;-Knowing this
twofold path of gain and loss.
Let him so conduct himself that wisdom may increase.

思 慧 念 念
正 而 不 応 念
道 不 邪 則 念
乃 成 起 邪 正



瑜伽によりて

智慧は生まれん

瑜伽なくば

智慧はほころぶなり

この生ずると

亡ぶるの

二つの道を知り

智慧の増すがごとくに

おのれを行ざるべきなり

そうした中で先日 NHK で水谷修先生の特集番組が組まれていました。ご覧になった方も多いかと思います。今、若者達に急激に蔓延するドラッグの怖さを、現場の実状から分かりやすく語り聞かせる水谷先生の講演は、大きな共感を呼んでいます。麻薬や覚醒剤だけではなく街で容易に手に入ってしまうドラッグは若者を蝕み、ひいては家族、社会、国が蝕まれていきます。ある国からは戦略的に日本に覚醒剤が密輸されてもいます。そして闇社会だけが潤っていきます。

将来のある若者を守ることは国家の義務であり、国を守る一つの闘いであります。

引きこもる若者が統計に現れるだけで 50 万人とも言われます。さらにニートと呼ばれる働く者、学校にも行かず、仕事のための研修や訓練も受けない若者も約 40 万人と激増しています。



「ドラッグなんていらない」 水谷修著

東山書房

併まいの美しい若者たち

こうして書いてくると、若者にたいする眼が厳しくなるのは当然ですし、マスコミなどで若者達の犯罪の凶悪化が進んでいると書かれると、若者は怖いという感情さえおこります。

しかし大多数の若者は明るく誠実で将来に向かう力と大きなエネルギーを持っています。

正月に当山にアルバイトに入る大勢の若者達は皆、責任感もつよく何年かくる間に仲間意識も生まれるようです。

また寺子屋回想法という会を開いたときに参加した若者達は併まいも美しく実際に爽やかで暖かさを感じました。寺子屋回想法とは各世代（今回は 20 代から 90 代）が集まり、それぞれ自分の経験や将来について小人数のグループに分かれて世代間の交流を試みるという会です。慶成老年学研究所の黒川先生の発案で寺院という歴史性のある場所で行うことで何かが生まれるのであればということで開かれました。

最近は核家族化が進み異なる世代の交流が家庭でもなくなりつつある中で、見ず知らずの他人、しかも年齢差は最大 70 歳という会でした。

しかしそうした心配は杞憂に終わりこちらが設定した時間を大幅に超えて実際に和気藹々と交流が進んでいきました。参加者のある方は「テレビの中の若者しか知らないと、この国の将来はどうなるのか心配でしたが、今日出会った若者達を見て安心しました。」といわれました。寺子屋回想法についてはいずれ特集を組みますが、月刊ソトコトの 10 月号に紹介記事がありますのでご興味のある方はお読みください。



生き残れない阪神淡路大震災

新潟の震災の報道が続いていました。余震の恐怖と少ない物資と少ない情報の中で眠れない夜を過ごす人々に一刻も早い仮設住宅が必要です。現地の声を聞くと自衛隊、警察、消防、役所それぞれは救出や復興に大変な努力をされていても、横の連携が上手くいかない。

こうした大被害をもたらす震災や危機のときは全権をもつ危機管理委員会を現地に設置するアメリカの方式も今後の参考になります。

現代の道しるべ

出生率 子供の出生率が激減しています。年金法が改悪された直後に出された数字には愕然とします。しかし出生率の減少は日本だけの問題ではありません。先進国には共通した問題です。

そうした中で出生率がV字回復した国があります。フランスです。フランスではやはり出生率の極端な減少により、国全体が危機感を持ち、出生率回復の為の適切な施策を実行しました。その結果出生率があがりはじめました。以下読売新聞（16年10月21日朝）の記事の抜粋です。

第1子が妊娠7ヶ月の時に約11万円（800ユーロ）、子供が3才になるまで毎月約2万2千円（160ユーロ）が手当として支給され、子供が多くなるほど手当は厚くなり成人になるまで、支給され続ける。さらに子供が3人以上いる家族は「大家族」と認定されパリ市内の交通費は半額、フランス国鉄料金も3割引き。動物園、博物館、美術館は無料。さらに住宅も市所有物件なら民間物件の約半額で借りられ、さらに家賃補助が月約2万円（150ユーロ）。

また出産休暇を12週間とってもその間の給与は国が全額補償。出産後同じ職場に復帰して、週5日の勤務を週4日働き残り1日分の給料を国が一部補償。1日8時間働き週5日勤務では、ベビーシッター代が月額13万5千円（約1000ユーロ）この80%を国が社会補償費として負担し、さらにベビーシッター費用は所得控除の対象にもなる。また夫も2週間の育児休暇を取る。労働時間は1週間で35時間でゆとりが生まれ家族の団らんを楽しむことができる。ソルボンヌ大学のデュモン教授（人口学専攻）は「国が包括的な少子化対策を取っているところほど、出生率が高い」

国	1950年	1980年	1994年	現在
フランス	2.92	1.99	1.65	1.91
ドイツ	2.05	1.53	1.24	1.29
イタリア	2.52	1.61	1.22	1.24
日本	3.65	1.75	1.50	1.29

子供たちのセーフティーネットを

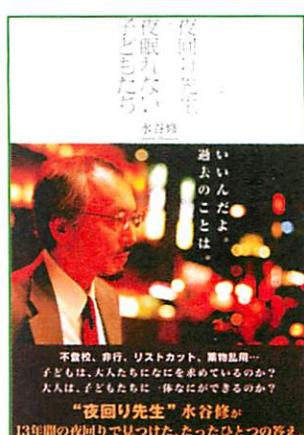
フランスのような財政的な援助も出生率回復のための有効な手段ですが、子ども達を安心して育てられる環境を作ることも急務です。犯罪の被害者のプライバシーは守られることなく、その情報は顔写真も氏名も住所も公表されてしまいます。大きな事件ではマスコミによって虚実織り交ぜられた私生活の洗いざらいが暴き立てられ、その犯罪が起こるべくしておこったような印象を讀者に与えていきます。

その一方で加害者の情報は人権の名前のもとに厳重に封印され守られています。犯罪の種類によって再犯率の高いものがあります。一部の国では被害者を同じ加害者の再犯から守るために、或いは地域住民の安寧のため、服役し更生してもその犯罪を犯した者の住所や氏名が公表される制度があります。

安全な町作りには公園や通学路などの死角を防ぐなどといったハードの施策と、ソフト面の充実が急務です。

夜回り先生と眠れない子ども達

サンクチュアリ出版





『安ければそれでいいのか』
山下惣一編著
コモンズ

最近アレルギーを持つ人と、アレルギーの種類の多さに驚かされます。花粉症、そばアレルギー、小麦アレルギー、卵アレルギー。食を中心とした環境の大きな変化がその原因の一つだと思います。85年イタリアでは牛肉を使ったベビーフードを食べ続けた男子の乳房が異常に肥大し問題となり、肉牛への成長ホルモン剤六種の使用が禁止されました。同時に成長ホルモン剤を使用した牛肉の輸入を禁止しました。アメリカやオーストラリアは抗議してWTO（世界貿易機関）に提訴しましたが、ヨーロッパは頑として拒否しています。日本では国内での使用が禁止されている成長ホルモンや抗生素が使用されたオーストラリアの牛肉が輸入されています。さらに肉牛が食べる牧草に使用される農薬が残留農薬として牛肉の中に含まれています。

この本は、安いハンバーガーや牛丼の価格のからくりから分かりやすく食の安全について訴えています。なかでも農水省農林水産政策研究所の篠原孝所長の提唱する地場生産、地場消費は説得力があり共感しました。篠原氏は同時に輸入野菜の4つの危険性を明らかにします。

- 1 輸入野菜は、遠距離による汚染の危険。残留農薬、ポストハーベスト、殺菌剤、くん蒸さらに遺伝子組み替えなどさまざまな汚染リスクにさらされている。
- 2 食料の自給率の低下に繋がる。50年前まで日本人は一汁二菜の質素な食事が基本。逆に言えば米と野菜があれば生きていけるこの最低ラインを放棄してはならない。
- 3 国内の農業破壊。農業には環境の保全、景観、地域の文化との密接な繋がりがあり、生産効率だけでは計れない重要で豊かな側面がある。
- 4 環境汚染。野菜の輸送にともなう石油の消費が地球の温暖化につながり輸入国に大量の廃棄物が溜まる。日本は輸入量7億トンに対し輸出量1億トン、つまり毎年6億トンの廃棄物がこの狭い国土に充満していく。これではリサイクル法も根本的な解決に繋がらない。

国が政治的な妥協で輸入牛肉や輸入野菜を国内にいれても、消費者が見識をもって何を求めるかを選ぶ上でただ安いだけのそして危険な食材は市場価値を失っていきます。

「安物買いの銭失い」という素晴らしい言葉があります。

情報コーナー

『密教マンダラと文字・絵解き』 真鍋俊照著 日本出版社

密教は文字の世界、經典や文献の中だけにはありません。森羅万象に広大な密教のフィールドが拡がっています。その広い密教の世界を自由に遊び、自在に表現する人々がいます。

写真家の石元泰博氏、デザインの杉浦康平氏、音楽家の湯川れい子氏等々。各界で活躍する人々の密教世界を曼荼羅として開いたのは真言密教の泰斗真鍋俊照師。



『空海曼陀羅』 夢枕 貌編著 日本出版社

夢枕氏は最近『沙門空海唐の国にて鬼と宴す』という構想18年におよぶ長編小説を上梓されました。この本は夢枕氏が出会った空海に関する文章をまとめて一冊にしたものですが、まさに『空海曼陀羅』の名前にふさわしく、菊池寛、松岡正剛はじめ秋山ジョージ、荒俣宏など10人が描く空海像を一冊にまとめています。書く人によってこれだけ幅広い人間像を浮かび上がらせるのは、弘法大師のスケールの大きさのなせる業です。



『炎よりも熱く』 小松成美著 PHP

小松成美という素晴らしいインタビューがいます。今年大リーグの歴史的な記録を作ったイチローを取材した本「イチローオンイチロー」を読んだ方も多いかと思います。この本は茶道の千宗屋、歌舞伎の市川亀治郎、将棋の佐藤康光という若くして伝統を受け継ぐ三人へのインタビュー集です。三人一緒の座談も面白く、新春から、歌舞伎を見たり、茶道に親しんだり、将棋に触れるよききっかけになります。

『ヴィヴァルディ・後期ヴァイオリン協奏曲』

ジュリアーノ・カルミニョーラ SONY RECORDS INTERNATIONAL

「四季」で有名なヴィヴァルディですが、彼の作品は世に出ていらないものが沢山あります。作曲した楽譜を印刷によって大量に売ることが、作曲家の利益に繋がります。しかしヴィヴァルディは50代の初めのころから、特定の個人にしか作品を提供しなくなります。しかも自筆の楽譜はかなりの高額だったといわれます。そのため大切なコレクションとして秘蔵されたり、売られることなく手元におかれたものもあると思います。素晴らしい演奏でよみがえったヴィヴァルディの音楽は、とても新鮮な響きに満ちていて音の美しい莊厳な伽藍が生まれます。





次号特集 ブッタ像誕生の地ガンダーラ

Editor ABE RYUJU Art Director and Photographer/TATSUKI
Editorial Staff/ SAMURO MIWA SHIMAZU RYUTOKU KAWASAKI YUKIKO KAWAMURA KAZUYA KARASAWA YOUYU
EDITORIAL OFFICE MANGANJI SHUGEISHUCHIIN S.H.C Making Mechanic B E N R I D O Printing KORINKAKU

〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-15-1 電話 03-3705-1622 ファクシミリ 03-3703-4979

Shingon Horonic Irowanioedo 第一巻第三十三号 平成十七年正月発行